

湛水直播管理情報 (第1号)

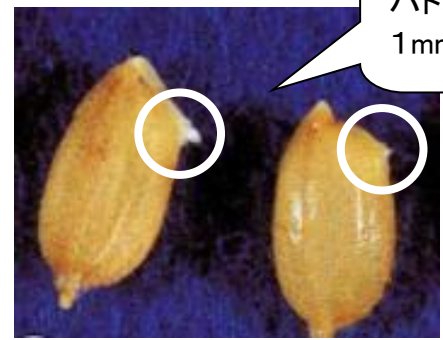
～ 湛水土中直播(カルパー) ～

平成30年4月13日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 種子消毒・浸種・催芽

- (1) 種籾は乾籾で2.5～3.0kg/10a準備してください。
- (2) 発芽・苗立ち向上のため、比重選・種子消毒(モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬)は確実にいきましょう。
- (3) 浸種は移植栽培と同様に、水温10℃以上15℃以下を保ち、積算温度100℃以上を確保するよう、しっかり浸種してください。なお、発芽率を高めるために、浸種初日は水温12℃を確保してください。
- (4) 催芽は、ハトムネから1mm程度の芽の長さに揃えてください(右写真参照)。

※予定より早く催芽した場合は、水から上げてムシロに広げ、陰干しをしておき、コーティング作業の4～5時間前に再び水に漬けてコーティングに備えてください。



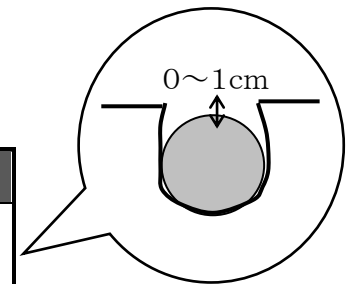
芽の長さは、
ハトムネから
1mm程度に！

写真 カルパーコーティングに適した催芽の状態

2. 代かき

- (1) 水を少なめに行い、稲わらや雑草をしっかりすき込みましょう。
- (2) 練りすぎに注意し、播種時期に適正な硬さになるように仕上げましょう(下表参照)。

土壌区分	時期	播種時の土の硬さの目安
砂壤土	播種2～3日前	1mの高さから落としたゴルフボールが、0～1cm程度沈み込む状態。
粘質土	播種4～5日前	



3. 基肥量の目安(コシヒカリ)

土壌区分	LPss直播コシヒカリ	チッソ成分
砂壤土	32～35kg/10a	6.7～7.4kg/10a
壤土・黒ボク	25～28kg/10a	5.3～5.9kg/10a
粘質土	23～26kg/10a	4.8～5.5kg/10a

倒伏を防ぐため、
基肥のやりすぎに
注意しましょう！

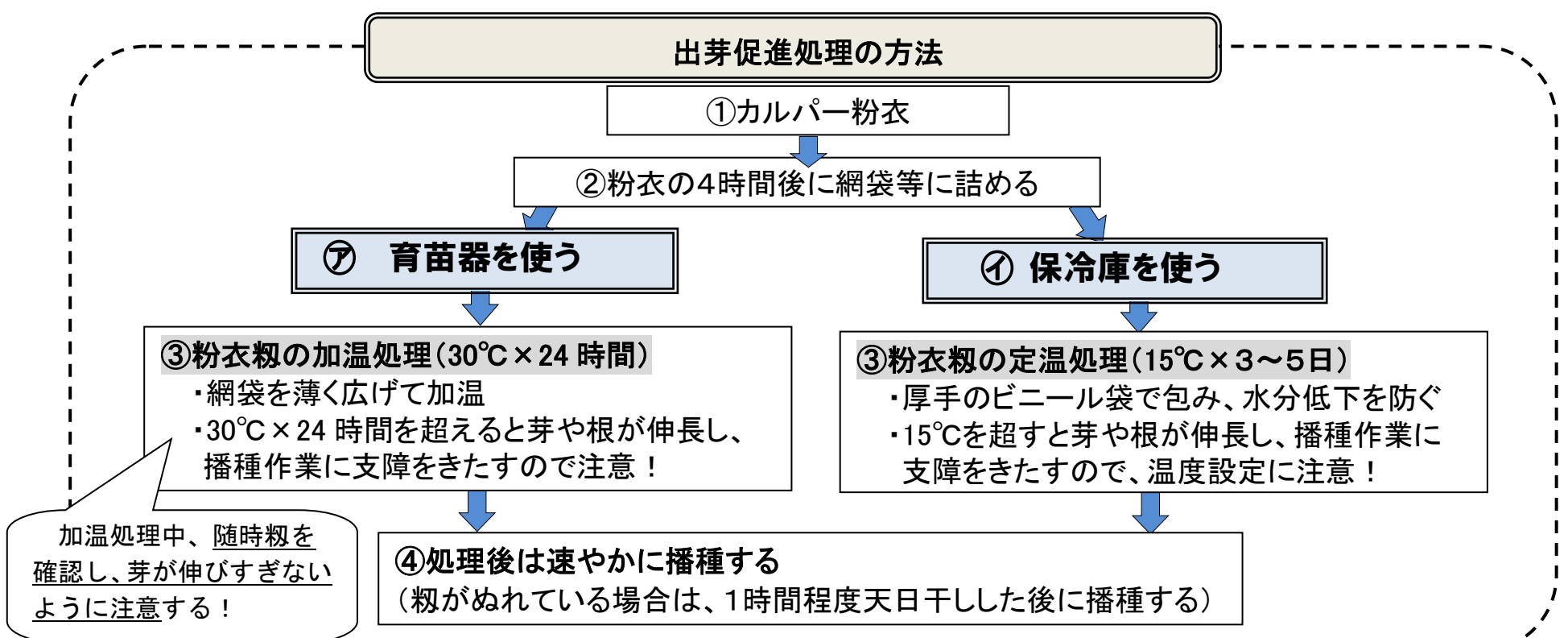


4. コーティング作業

- (1) 均一にコーティングするため、催芽籾は十分に水切りしてください。
- (2) カルパー粉粒剤16は乾籾の等倍～2倍量程度を粉衣し、タチガレエースM粉剤を乾籾重量の3%(乾籾3kg当たり90g)加えてください。
- (3) コーティング後は2～3時間陰干ししてください。ただし、乾き過ぎないように注意しましょう。
- (4) コーティングした籾は早めに播種してください。

5. 出芽促進処理

- カルパー粉衣種子を加温することにより、出芽の促進や揃いをよくすることができます！
『育苗器を使った加温処理』(㊦)することにより、出芽が早くなり苗立ちが揃います。
また、コーティング後播種まで日数がある場合は、『保冷庫を活用した定温処理』(㊧)がオススメです。



6. 播種

播種適期	4月25日～5月10日
播種量	乾粒で2.5～3.0kg/10a
播種深度	5～10mm

播種作業の際は、種子や肥料が落下しているか、確実に覆土がされているか、随時確認しましょう。



また、吐出口をこまめに掃除し、詰まりを防ぎましょう。

適正な播種作業により、目標苗立本数 40～60 本/m² (12～18 本/m) を確保！

7. 播種後の水管理

- 播種後速やかに5～10m間隔で排水溝を掘り、落水を促しましょう。
- 圃場の透水性に応じ、土壌表面に小さな亀裂が入る直前まで田干しを行い、出芽に必要な酸素を供給してください。
- 砂壤土等3～4日で大きな亀裂が入る圃場では、いったん水を入れ、再度干してください(2段干し)。
- 出芽後は水深2～3cm程度の浅水管理をし、分げつの発生を促しましょう。
- 田干し期間中に大雨や霜が予想される場合は、事前に入水してください。

足が沈まない程度まで田干しを実施。干し過ぎると、漏水により除草剤の効果が劣るので注意！



写真 適度な田干し状況

8. 鳥害対策

- できるだけカラスの飛来が少ない圃場を選定しましょう。
- スズメの食害は2葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに湛水してください。
- カモの食害は3葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに落水してください。
- 鳥害が予想される場合は、圃場に水系を張るなど、予防対策を行いましょ。

9. 除草剤散布

- 除草剤の散布は、出芽後入水し、減水が落ち着くなど湛水状態が安定してから散布してください。
- 散布時期を守り、遅れないように注意しましょう。
- 散布後5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は『止水管理』(「落水」や「かけ流し」をしない)を行いましょ。
- 気温が高めに推移していることから、使用時期の範囲内で遅れないように注意してください。

◎播種後の除草剤

	除草剤名	使用時期	使用時期の目安	使用量	使用方法	使用回数
初期剤	プレキープ1キロ粒剤	播種直後～ノビエ1葉期 (ただし収穫90日前まで) (出芽していなくても散布可能)	播種後 5～7日	1kg/10a	湛水散布	1回
	プレキープフロアブル			500ml/10a		
体系是正剤	ビッグシュアエース1キロ粒剤	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)	①初期剤使用 10日後頃 または ②播種後 13～16日	1kg/10a		1回
	サラブレットRXフロアブル	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)		500ml/10a		1回
	バッチリ1キロ粒剤	イネ出芽揃期～ノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで) ※イネ出芽揃期とは、緑色の不完全葉が 1m間に14～16本確認できる状態	播種後出芽揃 いを確認して (7～9日)	1kg/10a		1回

◎圃場別散布体系例

雑草量	播種後日数(目安)																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 多い					プレキープ1キロ粒剤 または プレキープフロアブル															ビッグシュアエース1キロ粒剤 または サラブレットRXフロアブル
② 少ない								バッチリ 1キロ粒剤												
														ビッグシュアエース1キロ粒剤 または サラブレットRXフロアブル						

【ノビエの発生が早く極めて多い場合】

初期剤を施用してもヒエの発生が多い場合は、クリンチャー1キロ粒剤(播種後10日から使用可能)を散布しましょう。